

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4-32 (電話) 011-871-3615		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年7月23日	評価確定日	平成21年9月3日

【情報提供票より】 ( 21年 6月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 11月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人,	常勤換算 16.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円		光熱水費 27,000円
	その他の経費(月額)		暖房費(11~3月) 12,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 ( 7月23日現在 )

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	1名	要介護2	10名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	1名
年齢	平均 83.5歳	最低 69歳	最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大屋医院、サンプラザ新札幌循環器病院、さくら歯科クリニック他
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな特徴として、地域との交流の素晴らしさを挙げる事ができます。地域の住民の方々の深い理解、運営者を始めとする職員の前向きな行動が相まって、地域全体が福祉へのうねりが感じられます。特に二つの小学校の児童、町内の子供達との交流は利用者の楽しみに留まらず、子供達への学びの中にも大切な灯りを点すものと思われれます。二つ目の特徴として、職員の利用者に向き合う姿です。利用者の思いや意向が的確に把握され、ごく自然な接し方は管理者が進めるOJT(働きのながらの訓練)が効果を挙げているものと考えられます。家族のアンケートにもこれらの対応が絶賛されています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では二つの改善課題が提示されましたが、「災害時における地域住民の協力体制」では、年2回の避難訓練を行ない夜間想定訓練を加え、地域の方々の参加もいただくなど取り組みが行なわれています。「重度化や終末期への対応方針」は、現在検討中です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット毎に職員全員が参加して、自己評価が行なわれていますが、折角の評価を一つに纏めたため各ユニットの取り組みへの焦点が失われた嫌いがあります。このことが今後の取り組み課題となっています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、利用者の現況、暮らしの様子を詳細に説明し、出席した委員の質疑にも丁寧な回答が見られます。レクリエーションの実施結果や今後の予定、献立表の提示、また、外部評価の結果を公開し、取り組みを話し合うなどサービスの向上に役立っています。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の顔がより見える方策として、ホーム利用料の窓口納入を勧めた結果、家族等の訪問頻度が大きく高まっています。この訪問時を利用した家族への報告、家族からの意見、要望、更には苦情も聞き取る努力が窺えます。また、これら意見、要望、苦情はホームにとって大切な宝物との認識を持ちながら、謙虚な対応と改善に向けた姿勢が管理者を始め職員全員に共有されています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者が町内会の役員も務めており、率先かつ精力的な地域との付き合い、交流など連携が図られおり、ホームと利用者が一体となって地域の一員の座を確保しています。特に近隣の小学校児童との交流は、招待状のやり取り、訪問時の内容の深さは特筆に値します。また、老人施設の利用者との交流、町内会の子供達と共に廃品の回収作業など、利用者が楽しみながら参加しています。</p>
	<p>重点項目④</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとしての理念「敬うところ・尊厳ある暮らし」に加え、「地域社会に貢献し、親しまれるホームづくり」が謳われるなど、地域に密着したサービス提供の理念が独自に作られ実践されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、日頃のサービス提供に際して、理念の実践を図るため、会議や日々の打ち合わせの場で、確認をしあうなど共有への取り組みが行なわれています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が、町内会の役員を務めており、精力的かつ率先して地域との付き合い、交流を図っています。特に二つの小学校の児童との交流で相互に行事への招待を行なうほか、子供会の廃品回収への参加、近くの老人施設との交流や町内会の諸行事参加など、地域の一員として十分な活躍が見られます。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に際して、ホーム長は職員全員に評価の意義について理解を求めながら、サービスの提供についての気づきを求めて作業が行なわれていますが、完成した評価を見ると二つのユニットが同様の結果となっています。	○	ユニットによって、利用者の状況や職員のスキルが異なり、同一の評価結果ではサービスの提供に関して取り組むべき課題が見落とされる危険が生じます。些細なサービスの提供もユニット毎で振り返りを行ないながら、課題への取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者に現況、暮らしの様子を細やかに説明して参加した委員の質疑に丁寧に応えています。医療機関の利用状況や日常の活動、レクリエーションの結果や予定、献立表など、また、外部評価の結果を公開し、取り組みについて話し合わせ、サービスの向上に役立てています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、市の担当窓口とはホーム運営に関して相談するなどしています。また、地域包括支援センターを通しての連携やキャラバンメートへの協力などを行なっています。これからは市担当職員がホームに来ていただくような機会作りも検討しています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されている「いずみ通信」は、利用者の暮らしの写真が満載で、家族の安心に繋がっています。また、利用者の様子が職員手書きのお便りとして添付されるなど配慮されています。さらにホームでは利用料などの振込みを出来るだけ廃止して、窓口持参による家族の顔が見える方策を行ないながら報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問頻度が非常に高く、訪問時を利用した話し合いを通して意見や要望、苦情などを聞きながらホームの運営に反映するようにしています。また、第三者の窓口も紹介するなど開かれたホーム運営に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者との馴染みを損ねないように、職員の安定した就業に配慮しています。また、1・2階のユニット間で利用者、職員の交流が日常的に行なわれるなど、異動などによる影響の軽減が図られています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員のスキルアップを図るため、OJT（ホーム内での現場研修）の強化を図っています。また、外部研修などへの参加について職員に情報を流すなどしていますが、職員のスキルに合わせた研修体制の構築には至っていません。	○	OJTの確保は、ホーム内でのサービスの質の向上に非常に役立っていますが、職員にとって外部研修はモチベーションの大きな契機となります。各職員のレベルに合わせた年間計画による研修受講への取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での同業者との交流のほか、ほかのホームとの相互訪問や施設訪問により、職員のサービスへの関心と向上に役立っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の新しい環境への対応を円滑に進めるため、家族の協力をいただきながら、入居前にホーム訪問や職員による自宅訪問での話し合いを通して、早期に馴染みが可能となるよう努めています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム長及び職員は、利用者の暮らしが「その人らしく振る舞えているか、持てる力が十分に発揮できているか」を細やかに観察しながら、利用者との協働可能な場面を作りながら、教わり学び合うなど、共に過ごし支え合う関係作りを目指しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のこれまでの暮らしは、家族からの情報などをいただきながら、利用者の意向や思いを把握する努力が繰り返されています。日々の生活での行動、表情、会話の真意など、職員の共有を図りながら検討が続けられています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントでは、家族の協力、情報をいただきながら、職員全員が関わり、利用者本位の介護計画が立てられています。計画の中では心身の安定、持てる力の発揮と維持、人格を尊重することなどを基本として意見交換やモニタリング、カンファレンスを経て作られます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間は6ヵ月としていますが、利用者の状況、病院での治療などにより随時計画の見直しが行なわれています。見直しに際しては、日常の生活記録などモニタリングを役立て、医師の生活記録や指導及び家族の意見も加えながら、職員全員で利用者が一番適した計画の見直しが行なわれるよう努めています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の事情を踏まえて、病院への送迎、利用者の希望に合わせた買物、墓参り、以前に住んでいた郷里訪問など、ホームの持つ多機能性を柔軟に発揮しながら、利用者の要望に応える支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医がいる利用者は少なくなっていますが、希望に応じた通院治療などの支援が行なわれています。ホームの協力医療機関では月2回の定期往診を行ない、あらゆる相談に応じてくれるなど、親密な関係を保持しています。また、訪問歯科医による定期健診と治療も行ない家族の信頼をいただいています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年からの課題でもありますが、ホーム長は重度化や終末期に向けたホームの方針の重要性を理解しながら、職員間で作成に向けた検討が行なわれており、試行錯誤を繰り返していますが、完成には至っていません。	○	現状では、看取りまでの条件及び環境整備に至っていない状況下にあります。重度化や終末期に向けたホームとしてのあり方や、職員の共有を図るための方針の明文化は大切であると思慮します。医師や家族間での話し合いを基本とし、早期に方針作成の取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者及び職員は、あらゆる事態、条件下でのプライバシー確保に努めています。利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援について会議やミーティングを利用して再確認が行なわれています。受付簿など記録には特に配慮がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な暮らしの流れはありますが、利用者のゆったりとした過ごし方を第一として配慮されています。女性の利用者には、おしゃれ感を持っていただくため、訪問美容師と連携をしながら身だしなみへの支援も行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と職員が相談して作り、調理も下拵え、配膳、下膳や後片付けは、全員で行なっています。職員と一緒に利用者の中に座りながら、さりげないサポートや楽しい会話のきっかけ作りをしています。早く食べる、また、ゆっくり食べるなど、利用者のペースにあわせた食事が展開されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回から3回を目標としています。利用者の状況を常に考慮しながら支援が行なわれています。仲の良い利用者同士の入浴、寝る前の足浴など、利用者の要望に応えながら楽しめる入浴が実践されています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの家事全般、大工仕事、庭や菜園の仕事、買物など利用者が楽しめること、得意な事柄を行なっていただき、達成感を味わっていただくなどの支援が続いています。また、昔話のきっかけ作りにより利用者が主体となって慣わしや伝統文化の継承につながる会話が盛んに行なわれています。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良い日には近くの散歩、買物をして楽しめます。また、ドライブで少し遠方にも出かけて季節の感触を味わいます。外食やお弁当持参で出かけるなど、利用者の希望を取り入れた外出支援が行なわれています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間に訪問する家族も多く、玄関は出来るだけ開放して家族に喜ばれています。利用者の離設行為には職員の見守りと外出支援により、昼間はいつでも開放されています。夜間のみ防犯上、玄関の施錠が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の取り組み課題であった夜間想定避難訓練は実施されています。年2回の消防訓練と避難訓練は消防署や近隣の町内会の役員、住民の協力をいただいているほか、救急救命やAEDの指導も受けるなど、臨場への備えに大きな配慮が行なわれています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量が生活記録に詳細に記録されており、医師の診察治療に役立てています。食事のカロリーは平均1,500~2,000kcal、水分は1,500ccを目標として支援されていますが、医師の指導により献立を変えるなど配慮して支援されています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の陽ざしを受けたリビングと食卓、厨房が隣接されコミュニティの場となっています。季節毎の飾りつけや利用者の作品が誇らしげに掲示されて思わず立ち止まります。ユニットによっては車椅子の移動を考慮した長いすの配置など状況に合わせています。利用者は生活感溢れる共用空間でゆっくりとした時間を過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での配置、持込の家具などは家族と相談して行なわれています。テレビ、小型の冷蔵庫、整理ダンス、机椅子、仏壇などが整然と並べられ利用者にとって安心の空間となっています。		

※  は、重点項目。